

◎特集 1 / 新県立図書館の建設に着手しました

◎特集 2 / 「やまなし」心づくり推進事業について

- 平成二十二年度 スーパー専門高校モデル事業（「目指せスペシャリスト」）研究経過報告
- 学力の把握に関する研究指定校の取り組み（総合的な学習の時間）について
- ひびきあう作品たち 所蔵作品特集展
- 甲府道祖神祭り - 江戸時代の甲府城下活性化プロジェクト
- 收藏品展 直筆の魅力 中里介山・斎藤茂吉・飯田蛇笏・太宰治・檀一雄・山崎方代ほか
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 釈迦堂遺跡博物館、善光寺宝物館
- らくがき ろう学校 若林 歩教諭  
甲府東高等学校 岩井 慎太郎教諭
- やまなし再発見講座&埋蔵文化財シンポジウム
- 学校紹介 / 富士川町立鰻沢中学校、甲府第一高等学校
- 総合教育センター情報 / 教職員のニーズやライフステージに対応する質の高い研修を目指して
- 新教育委員長、新教育委員就任挨拶
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 年中行事について調べる」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財（考古資料）顔面把手付深鉢一箇
- 主な行事予定



# 新県立図書館の建設に着手しました

## — 新図書館建設室 —

晴れわたる青空の下、平成二十二年十一月十日（水）に、甲府市北口二丁目地内の新県立図書館建設地で、起工式が挙行されました。

県選出国会議員、県議会議員、国・市町村関係者、図書館関係者、地元関係者、県・県教育委員会関係者、施工業者等、約二百人が出席し、起工式に先立ち行われた安全祈願祭では、横内知事・渡邊教育委員長が鍬入れ等を行い、新県立図書館建設工事の安全を祈願しました。



▲起工式で挨拶する渡邊教育委員長

起工式では、横内知事が式辞を述べ、渡邊教育委員長が挨拶し、松土教育長が経過報告・施設概要の説明を行いました。また、新県立図書館建設工事関係者の紹介が行われました。



新県立図書館外観イメージ（南西側から）

### ■「山梨県民図書館」を目指して□■

すべての県民に親しまれ、県民とともに成長・発展していく「山梨県民図書館の構築」を目指して、新県立図書館を整備します。この目標を具体化するための基礎となる考え方が、次の六つの基本コンセプトです。

- ①すべての県民のための図書館  
誰もが利用できる、幅広い分野で知識や情報が得られ、日々の仕事や生活に役立ちます。
- ②県民が創造する図書館  
県民が主体的に図書館に関わり、あるべき姿を創り出していきます。

- ③開かれた図書館  
知識や情報の世界への入口として、誰もが親しみを感じ、気軽に利用できます。
- ④成長する図書館  
求められる機能やサービスを新たに見出し、成長します。中核的図書館として県内図書館をリードし元気にします。

### ⑤県民の活動を支える図書館

図書館での学びを通して人々が集まり、様々な出会いと交流の舞台となります。

- ⑥山梨の文化を支え、創造する図書館  
山梨の文化を継承し、支え、発展させていきます。県民のアイデンティティを育み、地域に輝きをもたらします。

### ■建物設計の考え方□■

図書館は、本と人を結びつける施設であると同時に、知識を通して人と人を結びつけ、交流を促す施設でもあります。

新県立図書館は、幅広い分野の図書や山梨に関する資料を収集し、レファレンスサービス(\*)を行うなど県立図書館としての基本的機能に加えて、そこに集う人と人の交流を促す機能も重視しています。

また、本などの図書館資料を利用する閲覧エリアと、交流のためのエリアの間につながるりをもたせ、相乗効果を生み出し、全体が一

体となって、互いの活動を感じ取ることができ空間構成を重視しました。

施設全体が、本や人との多様な出会いによる知的な創造の場となり、その成果を発信していく拠点となる新県立図書館を整備します。

\*レファレンスサービス  
図書館司書が、調査研究のための資料や情報の入手を手助けするサービス

□建物設計では次の三点を重視しています。

一 県民が気軽に本と接することができる図書館



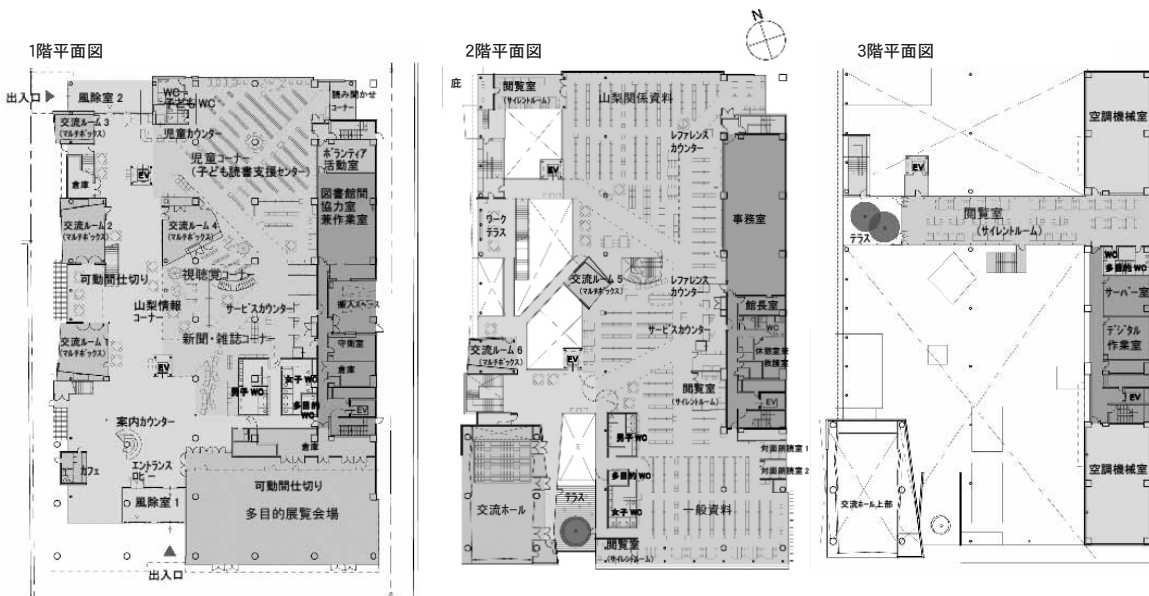
新県立図書館外観イメージ（南東側から）

静かなところで、ゆっくり本を読みたい人のための「静寂な場」を確保しながら、多くの人が気軽に本と接することができる、利用しやすい図書館とします。

二人と人とが交流しあう図書館

図書館の資料やサービスを利用するだけでなく、図書館を訪れた人々が互いの情報を交換し、思いがけない出会いや交流によって、新たな情報を生み出していくことができる図書館とします。

三 様々なメディアで情報を伝える図書館  
従来の紙媒体による資料に加え、映像や音声、デジタル資料などを積極的に提供していきます。



□建設工事の概要

敷地面積 四、五三〇㎡

構造・階数 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造、一部鉄骨

規 模 地下一階、地上四階建

建築面積 三、六三八㎡

延床面積 一〇、五五五㎡

最高の高さ 一九・五九m

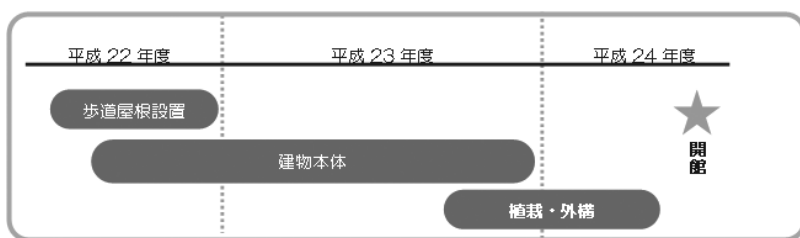
□開館までの日程

平成二十四年秋の開館に向け、建物本体工事を平成二十三年度末までに、植栽・外構工事を平成二十四年度の秋までに完了させる予定です。

建物の完成後、開館に向けた準備、引越等を行います。

新県立図書館の整備検討の状況や整備計画、建物設計及び建築工事等の進捗状況を、県ホームページにおいて紹介しておりますので是非ご覧下さい。

(<http://www.pref.yamanashi.jp/toshokan-ken/>)



工事日程イメージ



特集2

「やまなし」心づくり推進事業について

— 義務教育課 —

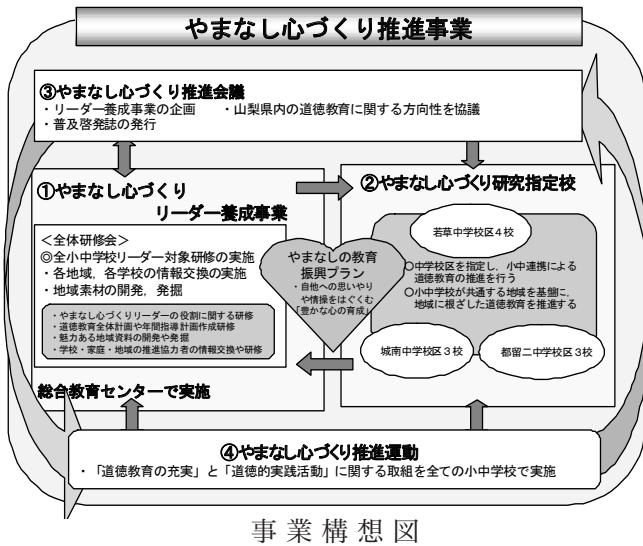
生命尊重の心や自尊感情の乏しき、規範意識や人間関係を形成する力の低下など、児童生徒の心の活力が弱まっているという指摘がされる中、道徳教育の一層の充実が求められています。

県教育委員会では、平成二十一年二月に「ふるさとを愛し、世界に通じる心づくり」を基本理念とした「やまなしの教育振興プラン」を策定し、その中で「自他への思いやりや情操をはぐくむ『豊かな心の育成』」を重点施策の一つとしました。

「豊かな心」の具体的なイメージを次のように考え、育成をめざしています。

- 美しいものや自然に感動する心等の柔らかな感性
- 規範意識や正義感、公正さを重んじる心
- 生命を大切にし、人権を尊重する心等の基本的な倫理観
- 自他を尊重し、他人を思いやる心や社会貢献の精神
- 自立心、自己抑制力、責任感
- 他者との共生や異質なものへの寛容等
- ふるさとに対する愛着と誇り

この振興プランの理念を受け本課では、平成二十二年度から三か年の計画により、次のような趣旨と内容で、「やまなし」心づくり推進事業を行っています。



事業構想図

◎趣旨

各学校における道徳教育推進のリーダー養成や、地域ぐるみで豊かな心を育てる具体的な実践例を研究し、今後の道徳教育の推進につなげる。

◎キャッチフレーズ

「自分が好き、家族が好き、地域が好き、やまなしが好き」

◎事業の内容

①「やまなし」心づくり推進会議の設置

推進会議の役割  
 児童・生徒の心の健全育成を図るための方策を検討し、豊かな心を育成するための学校・家庭・地域の望ましい在り方について検討する。

『つばさ42号』の企画及び編集を行う。

②「やまなし」心づくりリーダー養成研修会の実施

道徳教育の充実のためには、各学校の推進体制の充実を図る必要があり、各所で道徳教育の推進を主に担当するリーダーの養成を行う。

③「やまなし」心づくり研究指定校の設置

- 研究指定校
- 甲府市立城南中学校区
- 城南中学校・山城小学校
- 大里小学校
- 南アルプス市立若草中学校区
- 若草中学校・若草小学校
- 若草南小学校
- 都留市立都留第二中学校区
- 都留第二中学校

禾生第一小学校  
禾生第二小学校

○研究内容

各指定中学校区において、小中学校が連携し、義務教育九年間を見通した全体計画や道徳の時間の年間指導計画を作成し、豊かな心の育成に向けた一体的な取組を行う。

また、家庭・地域とも連携し、地域に根ざした道徳的実践を行う。

④「やまなし」心づくり推進運動

心の教育の充実のために、全ての公立小・中学校において、「道徳教育の充実に関する内容」「道徳的実践活動の充実に関する内容」について、学校の実態に応じた取組を行う。

四つの事業内容のうち、「やまなし」心づくりリーダー養成研修会の内容について紹介します。

■「やまなし」心づくりリーダー養成研修

○第一回（五月二十五日）

兵庫教育大学特任教授・小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者の小寺正一先生を講師に迎え、「新学習指導要領に基づく道徳教育の展開」と題し、教育改革の動向や学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた、道徳教育の在り方について講演をしていただきました。

第一回目は、各小・中学校の管理職の先生と道徳担当者が参加する中で行われ、道徳教育の重要性について改めて学習することができました。

○第二回（七月二十九日）

春日部市教育委員会指導課学校教育専門員・中学校学習指導要領解説道徳編作成協力者の山西実先生をお迎えし、「道徳教育全体計画と年間指導計画の作成」について、グループ協議を交えながら、実効性のある計画作りについて学習しました。

○第三回（八月二日）

第二回と同様、山西実先生より、「道徳の時間の資料の役割と、資料分析の在り方」についてご講演をいただいた後、道徳の時間の授業案作りをグループに分かれ行いました。グループ協議後には、改めて指導のポイントを山西先生より指導していただきました。



熱心にグループ協議を行う先生方

○第四回（十月二十一日）

元文部科学省初等中等教育局教科調査官・東京学芸大学教授の永田繁雄先生より、道徳の時間の授業づくりについて、講演をしていただきました。「児童・生徒の学びの中心がどこになるのか」という視点で資料を分析し、

授業を構想する方法について学ぶ、大変よい機会となりました。

○第五回（二月十日開催予定）

◎各学校で全面実施に向けた準備を

小学校は平成二十三年度、中学校は平成二十四年度から、新学習指導要領が全面实施されます。

新学習指導要領では、道徳教育が、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通して行うことが明確になりました。

このことを受け、各学校では、各教科等との関連を明らかにした全体計画の別葉等を作成する必要があります。実効性のある全体計画や年間指導計画となるような準備が必要となります。

また、道徳の時間について、その指導が形式化し実効が上がっていないという指摘から、道徳の時間で配慮すべきこととして、指導体制の充実、体験活動を生かした指導などの五項目が示されました。

道徳の時間は、児童・生徒が自ら道徳的価値について考え、自己の生き方について自分の力で考えを深めていく時間です。教師が一方向的に進めるのではなく、児童・生徒が問題意識をもって学習できるよう工夫した指導を行っていくことが大切です。

さらに、道徳の時間が、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念、思いやりの心、郷土を愛する心などの道徳性を育むための要の時間であることを十分理解し、児童・生徒の豊かな心をはぐくむことをめざした、創意工夫のある取組が求められています。

# 平成二十二年度 スーパー専門高校モデル事業（「目指せスペシャリスト」）研究経過報告

— 県立峡南高等学校 —

## 【スーパー専門高校モデル事業の概要】

昨年度、文部科学省から研究指定された「目指せスペシャリスト」は、本年度から県の事業「スーパー専門高校モデル事業」へと引き継がれました。ここでは、本校が取り組んできた研究テーマ「和紙を活かした商品開発と次世代の身延町を担う人材の育成」く西嶋和紙を中心とした伝統的地域産業の再発見とそれを現代に活かす商品開発について、今までの取組と研究の経過を紹介します。



【和紙の紙漉体験】



【ガラス工芸体験】

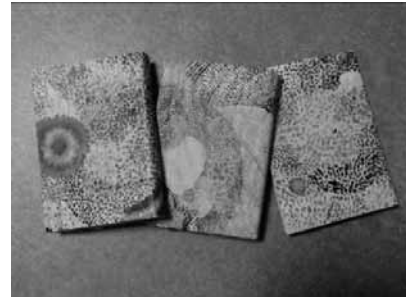
## 【昨年度（平成二十一年度）の取り組み】

昨年七月に指定を受けたため、二学期から本格的に取り組み始めました。建築インテリア科インテリアコース（略称・A1科Iコース）と、情報ビジネス科（略称・B科）が中

【点描画の作製】



【ガラス工芸体験】



心となり、体験学習や職場見学など、地域と連携・協力しながら、西嶋和紙等の地域産業への理解を深めました。特に、「身延町なかとみ和紙の里」での紙漉・色付け体験や、「富士川クラフトパーク」でのガラス工芸・陶芸など、通常校内では学習できない貴重な体験ができました。また、教育課程の検討により、平成二十二年度からの学校設定科目の導入と教材テキストの開発を進め、既存授業では、点描画の作製なども行いました。

## 【本年度（平成二十二年度）の取り組み】

一学期、Iコースでは、前年度に生徒が作製した点描画作品をもとに、ブックカバーを作製し、それを、B科の生徒が県内書店二店舗と交渉して、店頭での配布と西嶋和紙に関する調査を実施しました。夏休みには、B科の生徒が「和紙の里」で団扇を作製し、それ

を、地元ホテルと交渉し、団扇の配布と西嶋和紙のPR活動を行いました。また、同じく夏休みに、Iコースの生徒が校内実習室で木材加工した材料を使い、「ぴゅあ峡南」での「親子木工教室」で、各生徒が指導者となり、親子と椅子を組み立てました。この活動は、地域住民との交流や連携を目的に、ここ数年継続して行っています。同様に、近隣小中学校の出前授業や地域文化活動参加などの地域連携の活動は、学校全体として、現在も継続しています。

【団扇配布・PR活動】



【親子木工教室】



## 【これからの取り組み】

現在、和紙を使用した新製品の開発と、西嶋和紙のグローバルなPR活動の展開を、模索しているところです。



# 学力の把握に関する研究指定校の取り組み（総合的な学習の時間）について ～講座「北の杜に生きる」～

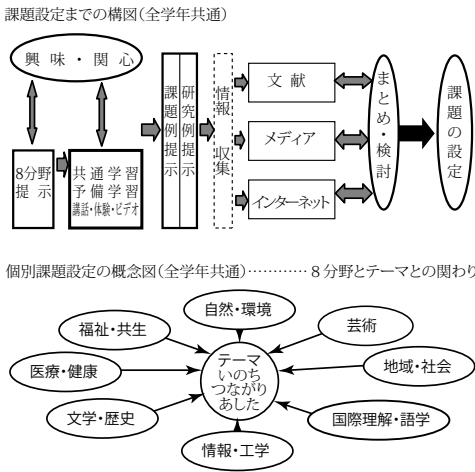
— 県立北杜高等学校 —

## ◇事業の概要

平成二十年度～二十二年度国立教育政策研究所の「学力の把握に関する研究指定校事業」として、生徒の学習状況を的確に把握し、それを指導の改善等に生かしていくため、「総合的な学習の時間における効果的な評価方法について」をテーマに研究をおこなっています。

## ◇本校の総合的な学習の時間の内容（目標）

「現代を生きる人間として必要な、自ら進んで課題を見つける力、情報・知識を活用して問題を解決する力、自己の考えをまとめ上げて外へ発信する力を、一人一人が身に付け、社会の一員であることを認識し、豊かな人間性を養い、未来を担う人材として成長させること」が目標です。



## （概要）

一年次・サブテーマは「いのち」  
 講話や体験学習を踏まえ、課題を設定・探究し、個人レポートの形でまとめ、発表を行います。

二年次・サブテーマは「つながり」  
 グループで共通課題を設定し、前期は個別課題でレポートを作成・発表し、後期はグループごとの計画による校外活動調査を含め、グループ研究の形でレポートの作成・発表をします。

三年次・サブテーマは「あした」  
 自己の将来像や社会のあしたを見据えて、分野の共通課題を設定し、個別課題レポートを作成・発表しながら、分野別討論会（主にディベート）を実施します。

## （指導体制）

学年ごとに学科やクラスの枠を取り払い、興味関心に応じて八分野十六分割し、一講座教員一名に対して生徒は十四～二十名です。一学年を十七名の教員で担当します。オリエンテーションや講演会、学年共通学習は、必要に応じて合同で行います。ただし、一年前期はクラス単位で教員二名がティームティーチングで行います。

## ◇研究の内容および成果

評価の観点の検討を重ね、評価規準を作成し、具体の評価を実施する中で、評価と指導の一体化を目指して取り組みました。

- 調査研究の対象 全学年
- 単元設定 学習活動を五つの単元に分ける

## ○観点の設定

- ①学習活動への関心・意欲・態度
- ②知識・技能の応用・深化
- ③総合的な思考・判断・表現

この研究の実施により次の成果がありました。

- ①総合的な学習の時間が生徒の学ぶ意欲や学びの姿勢を向上させた。
- ②担当者による差異が少なくなり、授業の質の向上に繋がった。
- ③三年間を見通した一貫性のある指導及び評価が実施できた。

この三年間の研究を通じて、生徒の個々の能力が高められ、学校全体の活性化にも繋がりました。今後も総合的な学習の時間を効果的に実施し、未来を担う、社会に貢献できる人材の育成に努めていきたいと思えます。



三年生ディバートの様子

## ひびきあう作品たち 所蔵作品特集展

— 県立美術館 —

当館にはおよそ一万点もの作品が収蔵されており、年四回の展示替えが行われる常設展示において、それらの作品の紹介をしています。

このたび開催する「ひびきあう作品たち 所蔵作品特集展」は、コレクションの中から、西洋の版画、日本画、洋画、現代美術の作品を選び、特別展示室で紹介するものです。

西洋の版画は、ドラクロワやドービニー、クールベ、コローなど十九世紀のフランスを代表する作家の作品を展示します。ロマン主義からレアリスムへ、そして、美術館の最も重要なコレクションである、ミレーやバルビゾン派の作品へとつながる流れをご紹介します。

ロマン主義は一八二〇〜三〇年代のフランスで隆盛をみた絵画運動であり、ドラクロワはその最大の画家でした。ロマン主義は文学と結びつき、ドラクロワも文学作品から着想を得た作品を多く残しています。出品作の中の一点《空を飛ぶメフィストフェレス》も、ゲーテの『ファウスト』の挿絵として制作されたものです。闇夜に飛ぶ悪魔は、リトグラフという技法により禍々しく力強い姿で描かれています。その後、現実を写実的に描くレアリスムが台頭し、ドーミエやクールベといった画家たちが活躍します。特にクールベ

は、自分が生きている同時代の社会を直截に表現しました。また、バルビゾン村に隣接したフォンテーヌブローの森をたびたび訪れ、他の画家たちとも交流しました。クールベと同じ時代に活躍したミレーもまた、バルビゾン村において、農民や農村風景といった身近な現実を描きました。ミレー館に展示されているミレーやクールベの油彩作品とあわせてご覧ください。

山梨ゆかりの作家による日本画は、川崎小虎、穴山勝堂、望月春江ら日本画院の画家たちの作品を展示します。一九三八（昭和十三年）年に設立された日本画院は、所属団体を越え、幅広い年代の画家たちが集った組織です。創立会員の小虎、勝堂、春江らのほか、次世代の画家である加倉井和夫らの作品も展示します。

洋画は山梨市出身の桑原福保と彼につながる画家の作品を展示します。桑原は、一九五〇（昭和二十五）年に桑原絵画研究所を創設し、山梨県内の多くの洋画家を育てました。桑原に師事した画家や交流のあった画家たちの作品もあわせて展示します。

現代美術は、写真や版画、立体など多彩な表現の作品を取り上げます。佐藤正明や須田悦弘、阪本トクローラ、山梨出身の作家による秀作もご覧いただくことができます。

コレクションから選りすぐった作品の数々をお楽しみください。

■会 期 一月十五日（土）〜

二月二十七日（日）

■開館時間 午前九時〜午後五時

（入館は午後四時三〇分まで）

■休 館 日 一月十七、二十四、三十一日〜

二月七、十四、二十一日

■イベント 新春館長トーク

一月二十三日（日）

午後二時三〇分

総合実習室

（申し込み不要、聴講無料）



ウジェーヌ・ドラクロワ 《空を飛ぶメフィストフェレス》  
（『ファウスト』より）1828年



# 甲府道祖神祭り ―江戸時代の甲府城下活性化プロジェクト―

― 県立博物館 ―

現在でも毎年、小正月の時期になると、県内各地において道祖神祭りの飾りものを目にします。松や竹、藁、色とりどりの紙を用いて、時には高さ数メートルを越える派手な作り物・飾りものが古くから作られてきました。まさに地域ぐるみで執り行われる一大イベントともいべき行事でしょう。

甲斐国の政治経済の中心であった江戸時代の甲府城下町もその例に漏れませぬ。毎年、道祖神祭礼の際には、町ごとに浮世絵の描かれた巨大な幕絵を通りの両側に飾り、それで町全体を包みこむという全国でも類を見ない、独自の祭礼が催されてきました。こうした珍しい行事が、何時頃、何故、始められたのか。最新の調査・研究成果を基に、そのナゾに迫るのが本展覧会です。

甲府道祖神祭礼において飾られた幕絵は、かつて数百枚あったと推定されています。残念ながら、明治時代の初め頃の達しによって、その多くが廃棄されてしまいました。奇跡的に現存が確認されているのは僅か三枚ですが、そのうち二枚を当館で収蔵しています。

この幕絵は、「東海道五十三次」で有名な絵師歌川広重が作成したものです。その華麗さと迫力は活気に満ちた往時の様子を思い起こさせるに十分でしょう。幕絵の大きさは、いずれも縦一・六メートル、横幅は一〇メー

トル程にも及ぶ巨大なもので、甲府城下町の商人は、町ごとに有名な絵師を呼び寄せ、各地の名所や芝居の名場面等を、巨大な幕絵に何枚も描かせました。

では、幕絵を用いた祭礼は何時頃から行われるようになったのでしょうか。様々な古文書や記録類を調査すると、どうやら江戸時代の終わり頃がその始まりのようです。当時の甲府城下町は相次ぐ天災や天保七年（一八三六）に起きた天保騒動という甲斐全体をまきこむ大暴動によって社会的にも経済的にも大きな打撃をこうむっていました。

そうした状況からの立ち直りを願って案出したのが、道祖神祭礼の折に巨大な幕絵を飾るという行事でした。当時、幕は外界からの魔物を遮る力がある神聖な道具と信じられていました。町全体を幕で包むことによって、魔物から防ごうという祈りが込められていたと考えられます。また、有名な絵師を呼び寄せ、数多くの幕をはじめとした飾りものを製作することで、巨額な資金が動き、経済の活性化も同時に意図されていました。

まさに甲府道祖神祭礼は現在、大きな話題となつている町興しの先駆けでもあったといえるでしょう。その華麗な文化を是非、本展示会において皆さん自身の目で御確認ください。



写真：甲府道祖神祭礼の様子CG復元  
(金山はつみ氏画像作成・提供)

会 期 平成二十二年十二月十五日(水) ～  
平成二十三年一月三十一日(月)

観 覧 料 常設展観覧料金で御覧いただけます

一般 五〇〇(四〇〇)円

高校・大学生 二一〇(一六〇)円

小・中学生 一〇〇(八〇)円

※( )内は二十名以上の団体料金、

県内宿泊者割引料金

## 収蔵品展

直筆の魅力 中里介山・斎藤茂吉・飯田蛇笏・太宰治・檀一雄・山崎方代ほか

— 県立文学館 —

当館が今年度収蔵した資料を中心に展示する「収蔵品展」を開催します。

「大菩薩峠は江戸を西に距る三十里、甲州裏街道が甲斐国東山梨郡萩原村に入つて…」の一節から始まり、江戸・大和・伊勢・甲州へ舞台を移す中里介山の「大菩薩峠」は、一九一三（大正二）年から約三十年にわたり執筆され、未完に終わった長編小説です。中でも、一九二五（大正十四）年一月から五月まで新聞に連載された「無明の巻」は、上野原の月見寺（保福寺）など、甲州を舞台に物語が展開します。四〇〇字詰め原稿用紙にインクで書かれた原稿には、介山のうねった文字の所々に、編集者による朱筆が施されています。

太宰治の書簡は、二〇〇字詰め原稿用紙三枚にインクで書かれ、甲府で執筆した「秋風記」、「新樹の言葉」などを収めた『愛と美について』（一九三九年 竹村書房）の増刷を、疎開先の青森の生家から出版者に依頼しています。

都留市で生まれた檀一雄の「師の墓地」は、佐藤春夫の墓前で師を追懐した随筆で、「ドン・キホーテ」をもじった号「奇泡亭」が印刷された自家用箋に、躍動感溢れる文字が並んでいます。

この他、山中湖畔に疎開した詩人・金子光晴の「機械」原稿、甲府市に居住し、後にルポライターとして活躍した竹中労が、父の思い出を記した「父・竹中英太郎のこと」原稿、墨筆では、旧中道町の歌人・山崎方代、笛吹市境川町の俳人・飯田龍太の書など、約八十点を紹介します。

小説の原稿や、友人知人に宛てた書簡、自作の俳句や短歌を自ら揮毫した書など、文学者の息づかいを伝える直筆資料を、この機会に是非御覧ください。

併せて、のむら清六の俳句雑誌「雲母」表紙原画や、やまなし文学賞小説部門受賞作の新聞掲載時挿絵原画など絵画資料も展示します。

会 期 平成二十三年一月十九日（水）～三月二十七日（日）  
開館時間 午前九時から午後五時（入室は午後四時三十分まで）  
休 館 日 一月二十四、三十一日、二月七、十四、二十一、二十八日、三月七日、十四、二十二日  
観 覧 料 無料



中里介山「大菩薩峠 無明の巻」原稿

## ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設を紹介します。

### 釈迦堂遺跡博物館（笛吹市・甲州市）

当館では、中央道釈迦堂PA建設時に発掘調査した釈迦堂遺跡の出土資料、迫力と美しさをあわせもつ縄文土器やかわいらしい土偶を随時200点以上展示しています。縄文時代、二千五百年間も続いた釈迦堂の大集落、土偶の出土数は日本随一。

重要文化財5,599点を所蔵し、春には眼下一面に桃の花の絶景が楽しめます。

体験イベントも多数開催、太古への時間旅行をしてみませんか。

住所 山梨県笛吹市一宮町千米寺764  
電話番号 0553-47-3333

休館日 火曜日・祝日の翌日、年末年始  
入館料 一般・大学生200円、  
小中高生100円、団体割引あり

駐車場 無料（普通30台）  
URL <http://www.eps4.comlink.ne.jp/~shakado>



大迫力の土器を間近で体感



かわいらしい土偶



水煙文土器

### 善光寺宝物館（甲府市）

当山は、開基武田信玄公が、川中島の合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ、御本尊善光寺如来をはじめ、諸仏寺宝類を奉遷したことに始まります。武田信玄公建立の七堂伽藍は、宝暦四年（1754）門前の失火により、灰燼に帰してしまいました。現在の金堂・山門は寛政八年（1796）に再建された建物で、ともに国の重要文化財に指定されています。

住所 甲府市善光寺3-36-1  
電話番号 055-233-7570  
担当者 渡辺・志村  
拝観受付時間 午前9時から午後4時30分  
拝観料 大人…500円、団体（30名様以上）  
二割引、小学生…250円  
駐車場 無料（普通30台 バス10台）  
URL <http://www.kai-zenkoji.or.jp>  
E-mail [staff@kai-zenkoji.or.jp](mailto:staff@kai-zenkoji.or.jp)



源頼朝



源実朝像

それぞれの日本最古の彫像として知られ、鎌倉期肖像彫刻の優作として文化財に指定されています。





「心自閑」とはいきませんが、  
岩井 慎太郎

休みがとれて、いろんな調整がうまくついた時、天気  
が良ければ小学生の子供と山や海へ行って遊び、あるいは  
リュックサックにお弁当やおやつを詰め込んで自転車で  
出かけ、雨で外出できない時には年長の子供達も加わ  
って居間の小さなテレビを囲んで映画会をする。そして  
お風呂に入って夕食を済ませた後、安酒をほどほどに  
いただく。時折訪れるそんな過ごし方に喜びを感じている  
自分を、つくづく攻めの姿勢を欠いた中年親父だなあ、  
と反省するこの頃です。

「子は宝」と言いますが、何の取り柄もない今の私にと  
っては恥ずかしながらそのとおりですが、もしかしたら  
国とか社会といった大局からみると、それ以上の宝なの  
かとも思います。そんな宝を学校で預かる仕事をさせて  
いただく中で、やはり喜びを感じる時がしばしばあるの  
も事実です。学校と家庭は勿論大きく異なるものですが、  
何か似通った関係というか、空気のようなものといった  
らよいでしょうか、そんなものも学校にはあってもいい  
のかな、と臆気ながら感じている今日この頃です。

(県立甲府東高等学校)

らくがき



「違った視点で」  
若林 歩

最近カメラを持ち歩くようになった。何でもカメラに  
収めたがる娘の影響もあるが、ある講演がきっかけでも  
ある。

その講師はちょっと気になることばや表示を見ると、  
写真に撮り、教材としてためておくのだそうだ。〈定期  
券は申し込みされた経由のとおりにご乗車下さい〉日本  
語として何か違和感を持つ。主語と述語が合わない。〈ど  
うぞ〉その一言が明るい社会を作ります〉明るい社会と  
はどんな社会か、子ども達はどんな社会をイメージする  
のか。常にそんな思いで、街にあふれていることばを見  
ているようだ。

私も早速カメラを鞆に入れて、気になることばや表示  
を探してみた。駅の構内、ポスター、広告等。するとい  
くつかのことばが目についた。「正しい」「正しくない」  
というより、気になるのである。優先席の「おゆずりく  
ださい」の表示は、ことばだけ見ると何を譲るのだろう  
かと、ふと考えさせられる。今までは特に何とも思わな  
かった表現も、「あれ？」と思ったり「なるほど」と思っ  
たり、不思議なものだ。

学校における日々の生活や授業も、違った視点で考  
え、今まで以上に面白い発見がありそうである。カメ  
ラに数枚の写真がたまった。

(県立ろう学校)

## 平成 22 年度山梨再発見講座&埋蔵文化財センターシンポジウム 「遺跡から探る墓制の変遷」 埋蔵文化財センター

生涯学習推進センターとともに開催している「やまなし再発見講座&埋蔵文化財センターシンポジウム」では、  
これまで主に中世から近世・近代にかけての遺跡をテーマに、考古学と関連諸分野との連携により実施して  
おります。今年度は「遺跡から探る墓制の変遷」をテーマに、各時代の墓制の変遷から見た山梨の地域性・独自  
性について明らかにしていくとともに、死をめぐる認識の変化、社会の変化について考えていきます。シンポ  
ジウム開催前の4回のサテライト講座では、各担当者より発掘調査で得られた情報をもとに、墓から見たそれ  
ぞれの時代の社会について取り上げ、そのまとめとして特別講演とシンポジウムを実施いたします。

[問い合わせ先]

■生涯学習推進センター TEL: 055-223-1853 HP: <http://yamanashi-bunka.or.jp/manabiblog/>

■埋蔵文化財センター TEL: 055-266-3016 HP: <http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>

◆サテライト講座 (毎週木曜日 14:00 ~ 16:00)

- ・ 1月6日「縄文時代の墓制」佐野 隆 (北杜市教育委員会)
- ・ 1月13日「弥生・古墳時代の墓制」小林健二 (埋蔵文化財センター)
- ・ 1月20日「古代の墓制」山下孝司 (韮崎市教育委員会)
- ・ 1月27日「中・近世の墓制」畑 大介 (帝京大学山梨文化財研究所)

○会場: 山梨県生涯学習推進センター・セミナー室

サテライト会場 (県内4合同庁舎)

○定員: 70名 ○受講料: 無料

◆特別講演&シンポジウム

○日時: 平成23年2月6日(日) 13:00 ~ 16:30

- ・ 特別講演「移り変わる墓と社会」土生田純之 先生 (専修大学教授)
- ・ シンポジウム「遺跡から探る墓制の変遷」

パネラー: 土生田純之・佐野 隆・山下孝司・畑 大介・小林健二

コーディネーター: 小野正文 (埋蔵文化財センター所長)

○会場: 県立男女共同参画推進センター (びゅあ総合)・大研修室

○定員: 150名 ○受講料: 無料

## 温 故 知 新

### 富士川町立鯉沢中学校

テン テン テン  
テレスク テン テン テン  
テンテリツ テンテンリツ  
どん どん テン どんどん

これは、毎年、学園祭や町の行事で披露する「鯉沢ばやし」のリズムです。

本校は、甲府盆地の南端に位置しており、東にはかつて県下の物流を一手に担った富士川が流れ、西には「さくら名所百選の地」である「大法師公園」を配しており、とても風光明媚な環境にあります。

富士川舟運の河岸として栄えたこの地で、幕末より始まった祭りをとおして、この「鯉沢ばやし」は、唱歌という口伝

えで受け継がれてきました。

本校では、昭和58年から地域の伝統芸能の保存に関わって、このお囃子の伝承を始めました。本校の卒業生でもある、地元の「鯉沢ばやし保存会」の方々に、講師として指導していただいています。

毎年、学園祭を始め、町の各種行事に際し、1年生を中心に披露してきました。

今年、増穂町と合併し新たに「富士川町」となりましたが、10月に行われた第1回の富士川町の体育祭にも参加しました。

地域の伝統を理解し、新しい町づくりに参画していく人材を育成していくために、これからも活動を進めていきます。



鯉沢ふるさとまつり



第1回富士川町体育祭り

## Boys, be ambitious! ～創立130周年を迎えた

### 「文化の香りがする懐の深い進学校」～ 甲府第一高等学校

#### ◇校 是

本校には、次の3つの校是があります。

『賛天地之化育（天地の化育をたすく）』

『苟日新 日日新 又日新（まことに日に新たに、日に日に新たに、又日に新たなり）』

『Boys, be ambitious!（少年よ、大志を抱け）』

中でも、『Boys, be ambitious!』は、クラーク博士の言葉として有名であり、本校の教育の原点とも言えるものです。

#### ◇F21プロジェクト

昨年度から、「F21プロジェクト」を展開しています。

55分授業・ユニット制の導入による文系科目の充実と理系科目の強化、土曜・長期休業中の学力増進講座や宿泊・登校学習会の実施、職員の県外高等学校訪問や指導技術講座へ

の参加など、学力向上に向けた様々な取り組みを行っています。

#### ◇創立130周年

本校は、今年10月に創立130周年を迎えました。創立以来、国内外の多方面で活躍する有為な人材を数多く輩出してきました。

また、今や地域の風物詩にもなっている強行遠足も、保護者や同窓生の皆様の厚いご支援をいただき、10月に84回目を無事実施することができました。

歴史と伝統を礎に、「文化の香りがする懐の深い進学校」を合言葉に、学業に励み、文化・芸術・スポーツを愛し、人のため、社会のために尽くす行動力のある生徒をこれからも育成していきます。



クラーク博士の訓辞〔石橋湛山 筆〕



同窓生の話聴く会

## 教職員のニーズやライフステージに対応する質の高い研修を目指して

— 総合教育センター 教育指導部 —

学習指導要領の改訂により、改めて「生きる力」の育成が、求められています。

「学校教育の成否は、個々の教員の資質・能力に負う」といわれるように、学習指導要領の趣旨の実現には、教職員一人一人が、より高い人格と見識、「教職」に対する愛着や誇り、使命感をもつとともに、人間の成長・発達に関する深い理解、児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力等を一層充実していくことが重要です。

このため、センターでは、初任者研修から新校長研修まで、教職員のライフステージに応じた研修を「必修研修」として実施しています。また、教科等研修、教育課題研修、教育相談、特別支援教育及び情報教育関係研修などの専門的な知識や実践的指導力を高める研修を個々のニーズに応じて受講できるよう「希望研修」として提供しています。

センターでは、夏季研修終了後、来年度の研修の企画に取り組んでいます。特に受講者のニーズやライフステージに対応する質の高い研修の実現を目指し、次の点に留意しながら、検討を重ねています。

- ① 研修会のねらい、対象者が明確で、受講者の願いが十分反映された研修会とする。
- ② 主事研究や一般留学生の研究など、セン

ターにおける研究の成果を積極的に取り入れた研修会とする。

- ③ 教職員一人一人の課題解決に資する内容とし、新たな発見や気付きの場となる研修会とする。
- ④ 授業力、専門性の向上など、教職員の資質・能力の向上に資する研修会とする。
- ⑤ 受講者の満足感や有用感を高める研修会とする。
- ⑥ 運営方法や内容を工夫し、受講者が主体的に参加でき、学ぶ楽しさや喜びを得られる研修会とする。

今年度開講した一七〇研修会には、八月末までに延べ二、〇〇〇人にも上る受講者がありました。特に、夏季休業中に実施した研修会の内、実技、実習、体験等を伴う研修会は大変好評で、申込者数が定員をはるかにオーバーしたのもたくさんありました。

### ◇小学校外国語活動の導入に向けて

このような中で、学習指導要領改訂や受講者のニーズに対応すべく実施した研修会に外国語活動にかかわる研修会があります。

小学校学習指導要領では、児童が、積極的にコミュニケーションを図る態度を身に付け、言語や文化に対する理解を深められるようにするために、外国語の音声や基本的な表

現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うことを求めています。センターでは、これに関係する研修会を二つ実施しています。

その一つ、「小学校外国語活動指導法研修会」では、文部科学省教科調査官の直山木綿子先生を講師にお迎えし、指導理論を学ぶだけでなく、実際の学習活動を意識した演習や具体的事例（含む県内実践校へのアドバイス）も学ぶことができ充実した研修となりました。

もう一つの「小学校教員のための使える英語を身に付けよう」研修会は、受講者が参加しやすいよう、六回の研修すべてを課業日の午後に設定し、受講者各自が都合のよい日を選んで参加できるよう計画しました。

いずれも、外国語活動実践のために必要な英語運用能力の向上を図ることができたことのできたと好評でした。

センターでは、今後も、教職員の専門性や資質・能力を一層磨いていただけるよう、より質の高い研修の提供に努めていきます。





## 新委員長に 渡邊 努氏が就任

県教育委員会では、須田清委員長の任期満了に伴い、後任の第七十三代委員長に渡邊努氏を選任しました。新委員長の任期は平成二十二年十月十三日から平成二十三年七月十六日までです。



新委員長  
渡邊 努

「教育基本法」の改正につづき「学校教育法」などの教育関連三法も改正されしばし経過しましたが、教育について抜本的な見直しが必要とされています。

教育を取り巻く環境は大きく変化し、国際化、情報化、価値観の多様化などに直面してそれらに対応した教育のあり方が求められています。

県教育委員会では既に平成二十一年度から「やまなしの教育振興プラン」や「県立高等学校整備基本構想」に基づいた教育施策が進められています。

それらの施策の基本理念とされる「ふるさとを愛し世界に通じる人づくり」は社会が教育に求めている最重要課題であります。

県教育委員長就任にあたり、これら進行中のプランや構想を基本に据えて時代に対応した教育行政の推進に努める所存であります。

特に学校、家庭、地域が一体となった教育環境の整備により「知・徳・体」のバランスの取れた山梨教育の実現に邁進したいと思っております。

## 新委員に 杉原 廣氏が就任

県教育委員会では、須田清委員長の任期満了に伴い、後任の教育委員として杉原廣氏が知事から任命されました。新委員の任期は平成二十二年十月十三日から平成二十六年十月十二日までです。



新委員  
杉原 廣

資源の枯渇や環境問題が深刻化し、情報化・国際化等が急速に進む社会の中で、子どもたちは生き抜き、自己実現をはかると同時に、社会の形成者となっていくかねばなりません。そのために、就学前と就学後、学校であるいは社会でどのような教育を進め、環境を整備していく必要があるのか、考えていきたいと思っております。

また、明るく活気ある社会を目指す上で、一つはスポーツの向上・発展が重要だと考えます。いつでも、どこでも、誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりが求められると思います。そのためにハード面の充実だけでなく、各種目・団体の運営面での一層の改善・工夫と、競技力の向上を図る中で、リーダーの育成・確保についても考えていきたいと思っております。

もう一つは、文化の向上・発展が重要だと思っております。人生を豊かにし、創造性や感性を育むだけでなく、社会全体の活力をもたらすと思っております。

教育委員として何が出来るか、まだ分かりませんが、精一杯取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

### \*\*\*しゅふれんすの道具箱 テーマ別調べ案内\*\*\*

#### ◇年中行事について調べる◇

山梨県立図書館

#### ☆世界の年中行事の概要を調べるには…

『世界大百科事典』第22巻（平凡社 2007年）  
日本、中国、朝鮮、インド、イスラム、ヨーロッパの年中行事の概要について説明しています。

#### ☆日本の年中行事について調べるには…

『全国年中行事辞典』（三隅治雄編著 東京堂出版 2007）  
公・武・民間すべての年中行事を総合通観する辞典です。  
『平安時代儀式年中行事事典』（東京堂出版 2003）  
平安時代の朝廷儀式及び年中行事を研究するための事典です。  
『江戸の庶民生活・行事事典』（渡辺信一郎著 東京堂出版 2000）  
資料や川柳により江戸の庶民生活の一年の流れを再現した事典です。

#### ☆中国の年中行事について調べるには…

『中国の年中行事（平凡社選書）』正・続（中村 喬著 平凡社 1988）  
中国の年中行事について、その起源と変遷を紹介しています。



※今回紹介した資料以外にも関連資料がございます。ぜひご利用ください。

# 山梨の文化財

県指定有形文化財（考古資料）

顔面把手付深鉢一箇（北杜市須玉町）

（平成四年三月五日指定）

顔面把手付深鉢が出土したのは、北杜市須玉町の津金御所前遺跡です。昭和五十六（一九八一）年に旧須玉町教育委員会によって発掘調査が行われた縄文時代中期初頭から後葉の集落跡です。

この土器は口縁部の顔面把手と胴部の前後に顔面部が立体化した人体文があることから、妊婦が出産している姿を表しているとされ、土産土器とも呼ばれています。縄文時代の精神文化を端的に示すものとして全国的に著名です。

昨年度、解体・修復が施され、現存する土器片から本来はやや丸みを帯びた器形になることと、顔面把手の左横に突起が付くこと、器高が少し低くなることなどが解りました。

この顔面把手付深鉢は、通常北杜市大泉町の谷戸城ふるさと歴史館で公開されています。



## 主な行事予定

<p>■特別展 「ひびきあう作品たち 所蔵作品特集展」</p> <p>1 / 15 ~ 2 / 27</p>	<p>■シンボル展 「甲府道祖神祭りー江戸時代の甲府城下活性化プロジェクトー」</p> <p>12 / 15 ~ 1 / 31</p>	<p>■企画展 「古代の道、中道からの眺め」</p> <p>12 / 11 ~ 1 / 30</p>	<p>■企画展 「収藏品展」</p> <p>1 / 19 ~ 3 / 27</p>
--	---	--	---

## 表紙を飾る



北杜市立明野小学校  
第1学年  
手塚 駿

作品タイトル

「ふみやくんとながれるぷうる  
で手をつないだよ」

たいいくのじかに1年生みんなプールに入りました。さいごに、ながれるプールをしました。ぼくはふみやくんと手をつないでおよぎました。いつもよりじょうずにおよぎました。さかなになったみたいできもちよかったです。手や足をのぼしたりちぢめたりしました。とてもきもちよかったです。

指導者 丸茂ひろ美教諭

## 「声かけ あいさつ」 みんなで実践 !!

- ◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。  
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744
- ◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。  
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html